

**第 17 回アジア・大洋州畜産学会議
報 告 書**

2016 年 8 月 22 日～8 月 25 日



**Kyushu Sangyo University,
Fukuoka, Japan**

2016

公益社団法人 日本畜産学会

目でみる 17th AAAPの会場風景

会場全景と受付



本会場は九州産業大学に
設置した。



開会式・Welcome Party を
ホテル日航福岡で開催した。

----- 受付および展示 -----



開会式会場前の受付.



受付の正面に展示会場を設け、
地元の名産品などの紹介が
行われ、盛況であった。

開会式

開会式には、約 600 名が参加し、多数の来賓も出席された。



来賓祝辞を述べている福岡県知事 小川洋氏（左）と日本獣医師会会長 藏内勇夫氏（右）。

開会式では、Awards Ceremony や基調講演も行われた。

The 11th AAAP Animal Science Award を受賞した In Kyu Han 博士(左)と小泉聖一 日本畜産学会理事長(右)。



わが国の和牛の起原に関する基調講演を行った神戸大学の万年英之会員。

Welcome Reception



組織委員長，理事長，
来賓らにより鏡割りが
行われた。

Welcome Party で親睦を
深め合う各国の参加者。



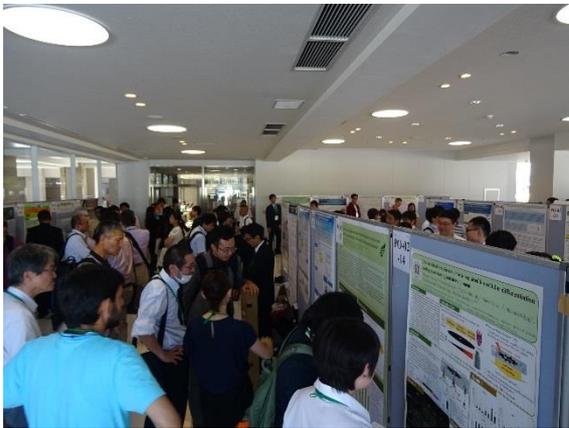
獅子舞や忍者ショーが行われ，
盛況であった。



一般発表と Council Meeting



口頭発表の会場。
活発な討議がなされた。



ポスター会場。



AAAP 加盟国代表が集まり、
Council Meeting が行われた。



閉会式と Farewell Party



大会長の九州大学 古瀬充宏会員による挨拶.



大会旗を持つ小泉理事長.



Farewell Party



Young Scientists Award/JSAS Excellent Presentation Awardの表彰も行われた。



各国の代表らがステージで挨拶と合唱。



第17回アジア・大洋州畜産学会議（AAAP2016）報告書

目 次

第17回アジア・大洋州畜産学会議を終えて（組織委員会委員長・理事長挨拶）

第17回アジア・大洋州畜産学会議終了報告（大会長挨拶）

1. 会議の名称
2. メインテーマ
3. 会期
4. 開催場所
5. 国際本部と主催・後援・協賛団体の構成
6. 第17回アジア・大洋州畜産学会議組織図
7. 会議の性格と目的
8. 日本で開催するに至った経緯
9. 歴代会議の開催状況
10. 会議開催に向けた準備の経緯
11. 国別の参加状況
12. プログラム
13. 各部会からの報告
 - 1) 学術・プログラム・出版部会
 - 2) 財務・経理部会
 - 3) 募金・広報・登録部会
 - 4) 宿泊・旅行部会
 - 5) 会場・接遇・展示部会
14. 第17回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会規則
15. 第17回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会
 - 1) 組織委員
 - 2) 顧問
 - 3) 組織委員会役員及び各部会員
16. 寄付金（個人・団体）、スポンサー、補助金の構成
 - 1) （公社）日本畜産学会会員の個人寄付者一覧
 - 2) 団体寄付者一覧
 - 3) スポンサー一覧
 - 4) 補助金
17. サーキュラー、ポスター、ロゴ、当日配布物など
 - 1) サーキュラー
 - 2) ポスター
 - 3) ロゴ
 - 4) その他
18. 財務・経理の報告
19. 監査の報告

第 17 回アジア・大洋州畜産学会議を終えて

第 17 回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会 委員長
公益社団法人日本畜産学会 理事長
小 泉 聖 一

第 17 回アジア・大洋州畜産学会議が、「環境と人類・家畜の福祉に寄与する持続的家畜生産の進展を目指して」をメインテーマに 2016 年 8 月 22（月）から 8 月 25 日（木）までの 4 日間にわたり、福岡市のホテル日航福岡及び九州産業大学で開催され、成功裡に終了したことをここに報告出来ますことは、日本畜産学会並びに本会議組織委員会を代表する者として何物にも代えがたい喜びとするところであります。

本会議はアジア大洋州の 19 ヶ国・地域が参加するアジア・大洋州畜産学会議（AAP）が開催する畜産学の最も権威ある国際会議の一つであり、わが国の畜産学並びに畜産にとっても重要な位置を占めているものと言えます。日本畜産学会も、1980 年の第 1 回大会から創立メンバーとして強く関与してきており、近年の経済成長に伴って、家畜飼養が急速に進展しているアジア・大洋州地域からの、わが国の畜産技術の移転、支援に対する要望は非常に強く、日本の国際貢献度を高めるうえで、これらに対応することは非常に重要なものであると言えます。学術研究の交流を通じて、多様な畜産業への認識を深めていくことは、新たな研究の発想、応用研究の進展、新規市場への展開などが期待できるとともに、日本を含めた今後のアジア・大洋州地域全体の畜産の進展にも多大な寄与となるものと言えます。

本会議の日本での開催は、1996 年に第 8 回大会を幕張メッセで開催して以来 20 年ぶりとなるもので、2010 年台湾での会議において日本での開催に対する要望が高まり、2011 年の日本畜産学会総会において、わが国に本会議を招致することを決定し、2012 年にタイで実施された第 15 回のカウンシルミーティングにおいて日本開催を提案し、満場一致で決定されました。これを受けまして 2013 年度日本畜産学会総会において前内藤邦彦理事長を委員長とする AAP 組織準備委員会を発足させ、2015 年度同総会において第 17 回 AAP 組織委員会を発足し、準備を進めて参りました。

本会議を日本で開催するにあたり、国内での学会大会を開催する時とあまり変わらない、出来るだけコンパクトな大会にすることと、アジア・大洋州の若手研究者に可能な限り多く参加してもらえるようにすることを念頭に、参加費を低く抑えることを一つの共通認識として準備を進めていくこととしました。開催場所としては、九州大学の若手教員の皆様の熱意とアジアのゲートウェイとして東京よりもアクセスしやすい点など、様々な観点から、九州で開催することに決定し、大会会長を九州大学の古瀬充宏会員にお願いするとともに九州近辺地域の本会会員に特段のご尽力をお願いいたしました次第です。当初、会場を福岡国際会議場とする予定であったものを、本会の安藤光一会員らのご尽力により九州産業大学で開催することができましたことは、開催費低減の上でも僥倖であったと心から感謝いたすところであります。

このような経過を経て無事に開催を迎えることができ、参加登録者 1160 名の 63%、742 名が海外からの参加で、参加者の 38%、443 名が学生登録であったという結果となり、若手研究者の参加促進という当初の思惑、目標の一つが達成できましたことは何よりの喜びと言えます。

す。また、Young Scientist Awardは従来 20 名程度の受賞者であったものを、今回、当初予定していた Presentation Award をこれに加えて、計 45 名に授与することとし、将来の国内外の研究協力と研究展開を期待する上で効果的であったとの評価を多くの方々から頂けたことは、大きな成果の一つであると思っております。

本会議の開催日を迎えるまでに、農林水産省、文部科学省、日本学術会議、中央畜産会、福岡県及び福岡市等のご支援とご協力を得、多くの機関、団体、企業から多大なご支援を頂きました。本報告書にありますように、第 17 回会議を無事成功裡に終えることが出来ましたのは、ひとえに本会議の開催趣旨をご理解頂き、募金に応じて頂きました、多くの団体、会社、本会会員、個人の方々のご支援の賜物であり、ご支援頂きました皆様に心より感謝申し上げます。また、種々のご助言、ご指導を頂きました顧問の先生方には衷心より感謝申し上げます。

最後に、組織準備委員会が設置されて以来 3 年間にわたり、会議の計画、折衝、実行と実務に献身的な努力を続けられてこられました委員の皆様には深甚なる御礼を申し上げるとともに、本会議の運営実務をご担当くださった株式会社コンベンションリンクエージの皆様にも厚く感謝いたします。

第 17 回アジア・大洋州畜産学会議終了報告

第 17 回アジア・大洋州畜産学会議 大会長
古瀬 充 宏

2016 年 8 月 22 (月) ~8 月 25 日 (木) の日程で、福岡市のホテル日航福岡及び九州産業大学で開催された第 17 回アジア・大洋州畜産学会議が盛会のうちに終了したことをここに報告できますことは、会議の運営に携わったものとしてこの上ない喜びであります。本会議は、「環境と人類・家畜の福祉に寄与する持続的家畜生産の進展を目指して」をメインテーマに、畜産における多様化・高度化した研究の利用、医学との連携、産業の創成だけでなく、アジアを中心とした畜産物需要への対応、家畜伝染病の阻止、地球環境に配慮した畜産の発展などについて討論を行い、その成果はアジア・大洋州のみならず世界的にも畜産学の発展に大きく貢献するものと期待して実施されました。

8 月 22 日には、福岡県知事、日本獣医師会会長、日本畜産学会理事長の祝辞を頂き、厳粛に開会式を挙行することができ、その後の 3 題の基調講演により国際会議は円滑に滑り出しました。また、同日午後には、日本獣医師会と福岡県獣医師会の協力を得て、九州産業大学大講堂にて、人獣共通感染症に関する市民公開講座も開催されました。

この会議への参加登録者は、1,160 名であり、そのうち 742 名が海外からの参加でした。参加者の約 64%が外国人研究者であり、参加国は、日本をはじめとして、インドネシア、台湾、韓国、中国、フィリピン、マレーシア、ベトナム、オーストラリア、スリランカ、インド、ニュージーランド、ネパール、アメリカ合衆国、バングラデシュ、アフガニスタン、エジプト、ドイツ、ナイジェリア、カンボジア、フランス、イタリア、ラオス、マカオ、メキシコ及びトルコ等で、アジア・大洋州以外からの参加もありました。本会議が日本で開催されるのは第 8 回大会に続き 2 回目ですが、経済状態などは前回とは比べようもなく、低予算での運営が求められました。それでも物価の高い日本での開催ということを考えて、参加費用をできるだけ低額にいたしました。それが、東南アジアの国々からも参加しやすい結果になったと考えられます。第 8 回大会が、国内 826 名、海外 240 名であったことを考慮すると国際会議としての立場は改善されたように感じます。

危惧されたのは、アジア・大洋州において畜産に関わる研究者が一堂に会する会議であるため、鳥インフルエンザ・口蹄疫汚染国からの来場者も多いことが予想され、来日中の国内の畜産農家や畜産関連施設などへの立ち入りを禁止し、エクスクーションなどにおいて参加者が家畜や家禽と接触することのないように万全の注意が払われました。また、会場入り口においては福岡県の協力をえて、消毒の徹底を図りました。

23 日より九州産業大学において、シンポジウムが 9 つ、ワークショップが 6 つ、一般発表は 337 題の口頭発表と 442 題のポスター発表が行われ活発な議論がなされました。充実した内容と適切な運営により、内外の参加者から高い評価を受けることができました。また、若手の研究者に対しては優秀発表賞が設けられ、口頭発表から 30 名、ポスター発表から 15 名に授与されました。歓迎レセプション、コングレスツアー、バンケット、フェアウェルパーティなどの社交行事も多く参加者に喜んで頂きました。

最後に第 17 回 AAAP 大会事務局として、この大会の成功のために、会議への参加、精神的

ならびに財政的なご支援、関係機関・団体への寄附の依頼にご協力いただいた組織委員会、実行委員会、福岡県職員の方々、日本畜産学会、日本獣医師会、福岡県獣医師会、日本暖地畜産学会、九州大学関係者の皆様に心から感謝申し上げます。また、今回の会議の開催にあたり快く会場を提供していただいた九州産業大学の関係者の方々に深甚なる謝意を申し上げます。

1. 会議の名称

和文名：第17回アジア・大洋州畜産学会議（第17回 AAAP）

英文名：The 17th Asia-Australasian Association of Animal Production Society Animal Science Congress（略称：17th AAAP）

2. メインテーマ

「環境と人類・家畜の福祉に寄与する持続的家畜生産の進展を目指して」

Strive toward Progress on Sustainable Animal Production Contribute to Environment and Welfare for Human and Livestock

3. 会 期

2016年8月22日（月）～8月25日（木）

4. 開催場所

九州産業大学

福岡県福岡市東区松香台 2-3-1

ホテル日航福岡

福岡市博多区博多駅前 2-18-25

5. 国際本部と主催・後援・協賛団体の構成

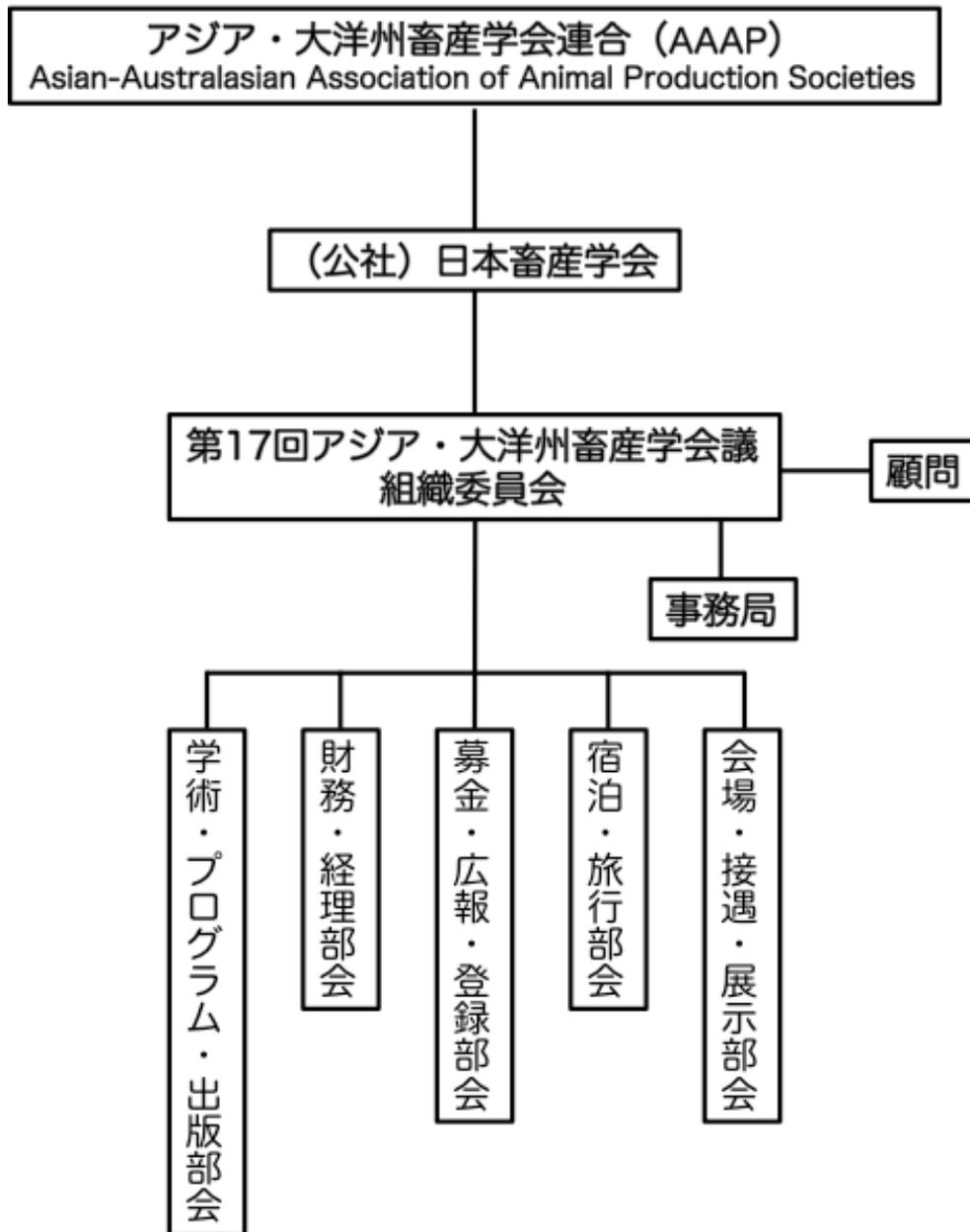
母体団体：アジア・大洋州畜産学連合

The Asian-Australasian Association of Animal Production Societies

主 催：公益社団法人 日本畜産学会

後 援：福岡市，福岡県，（公社）福岡県獣医師会，九州大学，九州産業大学，
（公社）日本獣医師会，日本学術会議，応用動物行動学会，肉用牛研究会，
日本家禽学会，日本家畜管理学会，（公社）日本獣医学会，日本生殖内分泌学会，
日本生殖免疫学会，日本動物行動学会，日本動物遺伝育種学会，
日本胚移植研究会，（一社）日本繁殖生物学会，日本農学会，日本養豚学会，
北海道畜産草地学会，東北畜産学会，関東畜産学会，東海畜産学会，
北信越畜産学会，関西畜産学会，日本暖地畜産学会

6. 第17回アジア・大洋州畜産学会議組織図



7. 会議の性格と目的

本会議は「環境と人類・家畜の福祉に寄与する持続的家畜生産の進展を目指して」をメインテーマに、畜産における多様化・高度化した研究の利用、医学との連携、新産業の創成、アジアを中心とした畜産物需要への対応、家畜伝染病の阻止、地球環境に配慮した畜産の発展などを主要題目として研究発表と討論が行われることとなっており、その成果はアジア・大洋州のみならず世界的にも畜産学の発展に大きく貢献するものと期待される。

8. 日本で開催するに至った経緯

(1) 会議の背景・経緯

2011年度(社)日本畜産学会総会において、わが国に本会議を招致することを決定し、2012年にタイで実施された第15回会議のカウンシルミーティングにおいて日本開催を提案し、満場一致で決定された。これを受けて2013年度(公社)日本畜産学会総会において第17回AAAP組織準備委員会を発足させ、2015年度同総会において第17回AAAP組織委員会を発足した。

(2) 今回会議を日本で開催する意義

本会議を日本で開催することは、わが国の畜産学の発展に大きく寄与するとともに、経済成長に伴って家畜飼養が急速に進展しているアジア・大洋州地域に対するわが国の畜産技術の移転、支援の機会にもなる。また、多くの国の若手研究者に発表の機会を与えるための種々の援助を検討しており、次世代の研究者の交流の場としても機能する。本会議はこれらを通じて同地域における日本の存在感を高めていく絶好の機会となる。

(3) 日本開催による効果、市民公開講座開催の効果等

アジア・大洋州地域からの、わが国の畜産技術の移転、支援に対する要望は非常に強く、これらへの対応は日本の国際貢献度を高めるうえで、非常に重要である。本会議を日本で開催し、日本の研究者と参加各国の畜産関係者とが交流を深めることは、AAAP諸国との太いパイプを構築する大きな機会となり、日本を含めた今後のアジア・大洋州地域全体の畜産の進展にも多大に寄与することとなる。

また、現在、畜産物需要の停滞、自給率の低迷、家畜飼養頭羽数・農家数の減少、TPP交渉の難航など、わが国の畜産業の置かれている困難な状況を打開するためには、新たな育種改良、繁殖技術・飼養管理技術などの開発・導入、さらには新たな畜産物の開発や新規市場・販路拡大など、様々な取組を振興・促進していく必要がある。アジア・大洋州は日本がこれまで導入してきた欧米の畜産物とは異なる畜産物の宝庫とも言え、これらの地域との学術研究の交流により、多様な畜産業への認識を深めるとともに、わが国独自の畜産関連研究とアジア・大洋州諸国に実践的研究が融合することで新たな研究の発想、応用研究の進展、新規市場への展開などが期待できる。

本学会の公益性を踏まえ、一般市民を対象に公開講演会を開催し、畜産の広報活動を促進することにより、一般市民の畜産に対する関心と理解を取り付けるとともに、アジア・大洋州に対する国際理解を深めていく機会となることを意図している。

9. 歴代会議の開催状況

開催年	開催地
1980年（第1回）	マレーシア
1982年（第2回）	フィリピン
1985年（第3回）	韓国
1987年（第4回）	ニュージーランド
1990年（第5回）	台湾
1992年（第6回）	タイ
1994年（第7回）	インドネシア
1996年（第8回）	日本
2000年（第9回）	オーストラリア

開催年	開催地
2002年（第10回）	インド
2004年（第11回）	マレーシア
2006年（第12回）	韓国
2008年（第13回）	ベトナム
2010年（第14回）	台湾
2012年（第15回）	タイ
2014年（第16回）	インドネシア
2016年（第17回）	日本

10. 会議開催に向けた準備の経緯

2013年

年月日	諸会議開催と主要検討内容	外部との対応等	情報発信等
9/8	●AAAP 組織準備委員会		
11/30	●PCO 選定のためのヒアリング		
12/2	●PCO をコンベンション・リンケージ (CL) に決定		
12/14		●九州産業大学視察	●前回大会 (インドネシア大会) での広報

2014年

年月日	諸会議開催と主要検討内容	外部との対応等	情報発信等
2/3		●日本学術会議への共催申請ヒアリング	
9/26	●CL との打ち合わせ ・ポスター・チラシの検討		
10月			●ポスター・チラシの完成
11/10-14			●AAAP インドネシア大会での広報

2015年

年月日	諸会議開催と主要検討内容	外部との対応等	情報発信等
1/20	●CL との打ち合わせ・今後の進め方についての確認・検討		
1/23			●website 運用開始
3月	●AAAP 組織委員会開催 (3/27)	●大会ロゴの決定 ●大会印の完成	●他学会への広報開始 (2015年10月までに計19箇所への広報を行う)
5月	●5月常務会 ・開催趣意書の決定		
6/20	●6月常務会 ・各プログラムの概要の検討 ・募金趣意書作成の検討 ・広報・周辺ホテル等現状の報告		
7/18	●7月常務会 ・一般演題募集のテーマの決定 ・エクスカージョン概要の検討 ・個人 (会員向け) への寄付金募集の概要の検討		

7/28		●宮内庁へのご臨席願いの説明	
8月		●レターヘッドの完成	●日本畜産学会会報 8月号に 会員向け寄付案内を掲載
8/27		●九州産業大学会場下見 ・ポスター会場, ランチ, 懇親会会場を主に視察	
8/31			●プロポーザル募集開始
9/10	●理事会 ●AAAP 組織委員会	●協賛・募金趣意書の配布 開始	
9/28		●九州産業大学会場下見 ・機材・施行等の確認	
10月		●大会用封筒の完成	
10/17	●10月常務会 ・会員向け寄付募集方法の検討 ・エクスカージョンの検討 ・一般演題募集の方法の検討		
10/31			●プロポーザル募集終了
11/21	●11月常務会 ・会員向け寄付募集方法の検討 ・後援名義申請及び助成金申請の申請 先検討		
12月		●後援名義申請の開始	
12/1			●一般演題募集開始
12/19	●12月常務会 ・一般演題募集の方法の検討 ・会場使用計画の検討 ・エクスカージョンの検討		
12/24		●会場下見 機材・施行等の確認	
12/25			●寄付・スポンサー募集開始

2016 年

年月日	諸会議開催と主要検討内容	外部との対応等	情報発信等
1/9	<ul style="list-style-type: none"> ●1 月常務会 ・会場使用計画の検討 ・エクスカージョンの決定 		
1/23	<ul style="list-style-type: none"> ●理事会 		
2 月			<ul style="list-style-type: none"> ●関連団体へポスターの送付 (100 箇所)
2/10			<ul style="list-style-type: none"> ●事前参加登録開始
2/20	<ul style="list-style-type: none"> ●2 月常務会 ・一般演題の発表方法の検討 ・同伴者プログラムの検討 ・当日運営スタッフについての検討 		
2/22			<ul style="list-style-type: none"> ●宿泊予約登録開始
3 月			<ul style="list-style-type: none"> ●月刊「畜産技術」平成 28 年 3 月号 ・大会告知及び大会長からのご 挨拶文の掲載
3/19	<ul style="list-style-type: none"> ●3 月常務会 ・会場使用計画の検討 ・市民公開シンポジウムの検討 ・当日運営スタッフについての検討 		
3/27	<ul style="list-style-type: none"> ●理事会 ●AAAP 組織委員会 ・常務会にて検討していた事項の準備 状況報告 		
3/31			<ul style="list-style-type: none"> ●早期事前登録終了
4 月		<ul style="list-style-type: none"> ●基調講演依頼開始 	
4/14			<ul style="list-style-type: none"> ●一般演題募集終了
5/21	<ul style="list-style-type: none"> ●5 月常務会 ・ビザ申請者の扱いの検討 ・基調講演者及び基調講演者の招聘条 件の決定 ・Proceedings 仕様の決定 		
6/18	<ul style="list-style-type: none"> ●6 月常務会 ・各種式典の次第等の確認 ・プログラム・アブストラクト集及び プロシーディングスの掲載内容の決 定 		

	・ネームカード及びストラップの仕様の決定		
7/4	●現地説明会 ・現状の準備状況の確認 ・会場等現地の先生が行う事項の確認 ・消毒槽の設置場所等の決定 ・救護室の設置の決定		
7/16	●7月常務会 ・一般演題発表要領の検討 ・各種式典の仕様の検討 ・同伴者プログラムの決定		
7/28-29		●プレコンgresミーティング ・AAP 事務局長の OHH 先生による現地視察(ホテル日航福岡及び九州産業大) ・本部への準備状況の説明	
7/31			●事前参加登録終了 ●宿泊予約登録終了
8/9-10	●現地での事前打ち合わせ ・会場下見を兼ねての当日運営についての説明会		
8/10	●東京での事前打ち合わせ ・各種式典の内容の決定 ・看板仕様の決定 ・事前最終の収支状況の確認		
8/21	●直前説明会 ・会議当日にむけた最終確認		●寄付募集締め切り
8/22-25	●第 17 回アジア・大洋州畜産学会議当日		
9/17	●9月常務会 ・参加者数及び当日の参加者からの問い合わせ、当日の忘れ物についての報告 ・お礼状発送先の決定		
9月下旬		●サーティフィケート等、事後の参加者からの問い合わせ対応	●お礼状の発送(後援名義・助成金・スポンサー・寄付企業顧問等、計 128 件)

11. 国別の参加状況

国・地域	参加人数
日本	418
インドネシア	174
タイ	167
韓国	127
台湾	126
中国	38
フィリピン	26
マレーシア	18
米国	12
ベトナム	10
オーストラリア	9
スリランカ	8
バングラデシュ	5
アフガニスタン	3

国・地域	参加人数
エジプト	3
ドイツ	2
インド	2
ニュージーランド	2
ナイジェリア	2
カンボジア	1
フランス	1
イタリア	1
ラオス	1
マカオ	1
メキシコ	1
ネパール	1
トルコ	1
合計	1,160

12. プログラム

畜産における多様化・高度化した研究の利用，医学との連携，新産業の創成，アジアを中心とした畜産物需要への対応，家畜伝染病の阻止，地球環境に配慮した畜産の発展などを主要題目として，19の分野にわたる一般演題発表819題（口頭発表41セッション377題，ポスター発表5セッション442題）に加えて，4つの基調講演，10のシンポジウム，6つのワークショップが行われた。また，会期中には，地元福岡県の獣医師会主催（後援：福岡県・福岡県教育委員会，福岡市）による公開シンポジウム「～いのちを考えるシンポジウム～人と家畜，そしてウイルス，現在&未来」が開催され，一般への畜産学に対する啓蒙活動を同時に行った。

本会議への参加者総数は1,160名，そのうち海外からの参加者は25カ国から742名であった。

Program At a glance

Monday, 22 August [hotel nikko fukuoka]

Room	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
Tsukushi Room						13:00-17:00		Opening Ceremony/ Keynote Lectures		17:30-		Welcome Reception

Day 1: Tuesday, 23 August [Kyushu Sangyo University]

Room	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
S201	8:30-19:00	Workshop 01 Mitigation of greenhouse gases and adaptation to climate change in livestock production systems										
S205		9:00-11:00 Workshop 02 Dairy production with local feed resources in Asian countries			12:00-14:00 Workshop 03 Using lesser galangal (<i>Alpinia officinarum</i> Hance) on pig diet							
S206					12:00-14:00 Workshop 04 Present situation and future prospect of meat production and the future direction in Asian-Australian countries							
S207	8:30-11:30	Symposium 01 Empowerment of Goat Farmer Through Mutual Trust										
N201		9:00-11:00 Oral Session 01: Focus Session Animal Breeding, Genetics & Reproduction		11:30-13:30 Oral Session 04: Focus Session Animal Nutrition, Feeds and Feeding				14:30-16:30 Oral Session 07: Focus Session Animal Nutrition (Non-Ruminants) (1)		17:00-19:00 Oral Session 13: Focus Session Animal Nutrition (Non-Ruminants) (2)		
N202	8:30-11:30	Symposium 02 Comparative Selection and Analysis of Genetic Properties and Protein Polymorphisms to the Total Scavenging Capacity from Indigenous Honey Bees of Indonesia										
N203								14:30-16:30 Oral Session 08 Animal Breeding (1)		17:00-19:00 Oral Session 14 Animal Breeding (2)		
N204					12:00-19:00			14:30-16:30 Oral Session 09 Livestock-Economics (1)		17:00-19:00 Oral Session 15 Livestock-Economics (2) / Poultry Science & Industry		
N301		9:00-11:00 Oral Session 02: Focus Session Animal Welfare & Health Management; others			11:30-13:30 Oral Session 05: Focus Session Poultry Science, Dairy Science and Industry			14:30-16:30 Oral Session 10 Animal Reproduction (1)		17:00-19:00 Oral Session 16 Animal Reproduction (2)		
N302	8:30-12:30	Symposium 03 Animal Nutrition and Metabolism										
N303		9:00-11:00 Oral Session 03 Animal Nutrition (Non-Ruminants) (1)		11:30-13:30 Oral Session 06 Animal Nutrition (Non-Ruminants) (2)				14:30-16:30 Oral Session 11 Animal Nutrition (Ruminants) (1)		17:00-19:00 Oral Session 17 Feeds & Feeding (Ruminants) (1)		
Circle Hall		9:00-11:00 Poster Session 01				13:00-15:00		14:30-16:30 Oral Session 12 Animal Nutrition (Non-Ruminants) (3)		17:00-19:00 Oral Session 18 Animal Nutrition (Non-Ruminants) (4)		
ARTERIA				11:00-13:00	LUNCH						17:00-19:00	Poster Session 03
OASIS												
Sub Hall			9:30-10:00 Coffee Break									
												16:30-17:00 Coffee Break
												16:30-17:00 Coffee Break

Day2: Wednesday, 24 August [Kyushu Sangyo University]

Room	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
S205		9:00-11:00 Workshop 05 Gut mucosal functions and health in poultry										
S206		9:00-11:00 Workshop 06 The effect of climatic factors on semen characteristics of Merino rams in a subtropical environment										
S207		10:00-11:30 Symposium 09 The new role and needs of traditional livestock, such as goats and chickens										
N202	8:30-11:30 Mineral Toxic in Tropical Forage and Selected Tissue of Cattle											
N203	8:30-11:30 Symposium 06 Animal Physiology											
N204	8:30-11:30 Symposium 07 Current Status of Animal Biotechnology and the Application for Livestock Production											
S304		10:00-12:00 AAAP Council Meeting										
N303	8:30-12:00 Symposium 08 Future Beef Production in Asia											
Circle Hall		9:00-11:00 Poster Session 04										
ARTERIA												

Day3: Thursday, 25 August [Kyushu Sangyo University]

Room	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
S201										16:30-17:30 Closing Ceremony		
S207	8:30-10:30 Oral Session 19 Milk, Eggs and By-products			11:00-13:00 Oral Session 27 Dairy Science & Industry			14:00-16:00 Oral Session 35 Animal Welfare & Health Management					
N201	8:30-10:30 Oral Session 20 Feeds & Feeding (Non-Ruminants) (1)			11:00-13:00 Feeds & Feeding (Non-Ruminants) (2) / Pig Science and Industry			14:00-16:00 Oral Session 36 Poultry Science & Industry (2)					
N202	8:30-10:30 Oral Session 21 Animal Breeding & Genetics			11:00-13:00 Oral Session 29 Animal Genetics & Diversity / Animal Reproduction			14:00-16:00 Oral Session 37 Animal Reproduction (3)					
N203	8:30-10:30 Oral Session 22 Poultry Science & Industry (1)			11:00-13:00 Oral Session 30 Hygiene / Animal Physiology & Anatomy			14:00-16:00 Oral Session 38 Meat & By-products (2) / Beef Cattle & Industry					
N204	8:30-10:30 Oral Session 23 Animal Physiology & Anatomy			11:00-13:00 Oral Session 31 Hygiene / Animal Physiology & Anatomy			13:30-16:30 Symposium 10 Impact, Adaptation and Mitigation of Heat-Stress in Livestock					
N301	8:30-10:30 Oral Session 24 Feeds & Feeding (Ruminants) (2)			11:00-13:00 Oral Session 32 Feeds & Feeding (Ruminants) (3)			14:00-16:00 Oral Session 39 Feeds & Feeding (Ruminants) (4)					
N302	8:30-10:30 Oral Session 25 Animal Nutrition (Ruminants) (2)			11:00-13:00 Oral Session 33 Animal Nutrition (Ruminants) (3)			14:00-16:00 Oral Session 40 Animal Nutrition (Ruminants) (4)					
N303	8:30-10:30 Oral Session 26 Animal Nutrition (Non-Ruminants) (5)			11:00-13:00 Oral Session 34 Animal Nutrition (Non-Ruminants) / Small Ruminants			14:00-16:00 Oral Session 41 Environment & Behaviour					
Circle Hall												
ARTERIA												
Sub Hall												

13. 各部会からの報告

1) 学術・プログラム・出版部会

本部会の構成は、第17回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会より3名（うち、部会長1名）及び日本畜産学会機関誌編集委員（以下、編集委員）のうちの日本人編集委員39名の計40名（組織委員会委員3名のうち、2名が編集委員のため）とした。当初の主な活動内容は、基調講演、シンポジウム、公開講演会の計画、プログラムの内容構成、講演者・座長の選定、プログラムとアブストラクト集の発行、プロシーディングスの発行等であったが、その後、“JSAS Excellent Presentation Award for Students”の候補者選定が加わった。

シンポジウム及びワークショップは公募の形をとったが、大会長のご尽力により、プログラム内に収めることができた。発表講演の受付は、当初集まりが悪いと予想され延長したことから、予想を大幅に上回る演題が集まり、会場の割り振りが難しかった。最も困難を極めたのは座長の選定であった。登録者や発表者の中から座長を選定しても、割り当てられた日に出席できないなどの返答が多く寄せられた。結果的に、発表演題受付の延長が尾を引き、座長の選定がずれ込んでしまったこと、最後の砦として座長依頼を考えていた編集委員に大会不参加の人が多かったことなど、多くの反省点が残る結果となった。これは、大会開催日が大学院の入試時期と重なったことも影響していると思われる。出版関係では、アブストラクト集の出版及びUSBメモリによるプロシーディングスの配布を行った。また、アワードの選定等に当たっては、日本畜産学会常務会のメンバーに協力を仰いだ。

前回日本で開催された際には、機関誌編集委員会が年に数回畜産学会の事務所で開催されていたことなど、編集委員同士は顔が見える関係だったのに比べ、今回は編集委員の人数こそ多いものの、ほとんど話し合いの場を持つことができなかったことや、多くの編集委員が大会に参加しなかったことから、構成メンバーの見通しが甘かったと言わざるを得ない。さらに、前回は「学術委員会」、「プログラム部会」、「出版部会」がそれぞれ独立していたことを考えると、活動内容と構成員がアンバランスであったことは否めない。次の機会には以上のような反省点を踏まえていただければと思う。

最後に、大会が無事終了したことに対し、関係者各位に感謝いたします。

2) 財務・経理部会

2011年にAAAP本部より、2016年の第17回アジア・大洋州畜産学会議（AAAP会議）の日本開催について打診があり、2011年6月25日の理事会後の国際交流委員会にて開催に向けて検討に入ることが確認された。その際、1996年（千葉・幕張メッセ）のような潤沢な予算は期待できないことから、開催場所は大学など安価な公共施設を利用することが提案された。

さらに、同年8月25日理事会後の同委員会にて、口蹄疫や鳥インフルエンザが発生した汚染国から畜産現場に近いところの大会開催は難しいことのほか、関東地区での開催は福島原発事故の影響から参加者が見込めないのではという意見が出された。開催期間を4日間に短縮することでアジアの玄関としての九州地区での開催の可能性とともに、他地区での開催も考慮して収容人数、会場費等の見積もりなど情報を集めることとした。

2012年1月の理事会にて、2011年9月に故津田恒之名誉会員から約1,900万円のご寄付を頂き、これを国際交流関係への基金とし、この寄付金の一部(1,000万円)を第17回 AAAP 会議の準備資金とすることを提案し、承認された。また、国際交流委員会において開催地別の会場及び経費などに関する資料から、会場費は700万円から1,000万円が見込まれ、これを参考に意見交換がなされた。その結果、九州での開催について九州大学を中心として、九州地区の会員の方々に参加人数800名から1,000名、会場、開催時期について検討をお願いし、また同年3月の第115回日本畜産学会大会(名古屋大学)での国際交流委員会に AAAP 会議の議論に参加を要請した。そして、同委員会において日本暖地畜産学会役員及び九州大学担当者の方々と今後の進め方について協議した。

2012年6月30日に常務理事会終了後、古瀬充宏会員(九州大学担当者)と本学会国際交流委員(常務理事)と意見交換し、大会は九州地区(博多)で開催すること、大会の規模、内容、経費は1996年第8回大会とは異なりコンパクトで実施することが確認された。また、会場としては福岡国際会議場を9月5日から8日までの4日間を仮予約中であるが、会場費のほか看板案内などを含めると見積額として800万円は下らないことが試算された。具体的な開催プログラムを九州大学で検討頂き、詳細に会場費を見積もることとした。

2012年10月27日の理事会において、鈴木省三名誉会員による100万円の寄付を国際交流基金への繰り入れが承認された。その後の国際交流委員会において、九州産業大学工学部に本学会会員である安藤光一会員が在職されていることがわかり、10月はじめに菅原邦生副理事長と古瀬充宏会員が視察し、同大学での開催に協力が得られ、また、会場費としては大学への寄付という形で、50万円から100万円程度で済むことが報告された。第17回 AAAP 会議への参加費は一般参加者を3万円程度とし、さらに学生は2万円として参加者を多くすることの意見が出された。今後の予定として、至急、理事長を委員長として AAAP 組織委員会を組織し、日本学術会議への申請や種々の助成金の申請準備を進め、併せて予算案を示すことの意味が出された。その後、九州産業大学教務課との会談から開催時期としては2016年8月22日(月)から8月25日(木)が妥当と判断され、会場と日程が決まり、福岡国際会議場の予約を解除した。

2013年1月26日の理事会において AAAP 組織委員会の設置が承認され、同年3月に本学会理事長より正式に九州産業大学へ借用申請書が提出された。その間、2012年11月29日のインドネシアでの第15回 AAAP 会議 Council Meeting において2016年の日本開催が決定した。

2013年6月の国際交流委員会において、開催趣意書の準備を進め、後援団体への説明の必要が協議された。同年9月の国際交流委員会と AAAP 準備委員会との合同委員会を開催し第17回 AAAP 会議についての意見交換を行った。大会業務については2~3の会社への大会概要の見積案を立ててもらい、2014年1月までに業者選定を行うこととし、参加費は業者の見積金額が出てから検討することとした。なお、日本畜産学会としての負担金は1,000万円を予定とすることとした。また、福岡コンベンションビューローへ(福岡市)の補助金(最大300万円)の申請準備を進めることとなった。

2013年11月30日に学会業務請負会社5社(ICS コンベンションデザイン、イベントアンドコンベンションハウス、コングレ、コンベンションリンケージ、日本コンベンションサービス)より参加意思の確認を得、説明資料によるヒアリングを実施した。その結果、

収支をマイナスにしないという強い姿勢からコンベンションリンケージに依頼することに決定した。加えて同年12月14日に常務理事数名と九州大学関係の会員による九州産業大学の会場視察にコンベンションリンケージの福岡支社の担当者に同行願うこととした。業者選定の際の概算見積額は4,550万円であった。

また日本学術会議への平成28年度共同主催申請国際会議としての申請のため、開催趣意書とともに予算書を作成し、申請したが2014年4月1日付けで共催とならない旨、通知があり、後援の申請に向けて準備することとなった。これまでの準備会議から会議参加登録費はタイ、インドネシアでの登録費と同程度として多くの外国人参加者を集めることを目標とし、一般早期登録25,000円、後期登録35,000円、学生は国情によりA、Bの2区分とし、A区分は早期登録15,000円、後期登録20,000円、B区分は早期登録10,000円、後期登録15,000円とした。また同伴者は15,000円とし、合計1,100名を目標とした。

2014年度以降のAAAP会議開催のための収支計画については、2012年の公益法人化に伴い、法人としての事業を、学術集会、国際交流、出版の3つの事業を内閣府に届けているため、AAAP会議特別会計として起こすと新事業となり、内閣府への申請が必要のため時間を要することとなるので、国際交流事業の1つとして、公益法人としての単年度毎に国際交流事業として予算計上することとした。また、当初、故津田恒之名誉会員及び鈴木省三名誉会員からの寄付金の総額約2,000万円の内1,000万円をAAAP会議経費に充てることと考えていたが、日本畜産学会の公益法人化に伴いこの2,000万円は学会の基本財産として組み込まれているため、容易に国際交流事業への資金移動が出来ないことがわかった。そこで、毎年の学会会費などの収入を組み替えにより調整し、毎年度の国際交流事業内での予算化により3年間にわたる事業として1,000万円の支出を計ることとした。

その後、コンベンションリンケージの担当者と協議を重ね、九州産業大学での開会式は収容人数やウェルカムパーティの料理の準備が出来ないこと、宮様のご来臨のための予算計上、ポスター会場の場所によっては外部からの冷房施設の準備、参加費無料のエクスカッションを3コース設定などが挙げられた。開会式はホテル日航福岡で開催し、アトラクションとして忍者ショーが企画された。2015年7月には諸々の事情から当初予算4,550万円から6,500万円に大幅に予算額を増額することとなった。収入訂正予算案として会議登録料2,400万円、学会負担金1,000万円、協賛金2,000万円、寄付金1,100万円とした。

この予算増に対し、福岡県、福岡市及び伊藤記念財団への助成申請、平成28年度科研費、研究成果公開発表などへの助成申請を行うと共に、企業団体への寄付のお願い、個人会員にも1口5,000円としてお願いし、30,000円以上の寄付を頂いた方へは3,000円相当の品（九州大学製法によるソーセージ・ハムの詰め合わせ）を送ることとした募金事業を行うこととした。また、共催費としてスポンサー募集、企業展示募集を始めることとした。

結果として収入は会議登録料2,694万円、スポンサー、広告協賛は547万円、寄付金は486万円、その他94万円と協賛金、寄付金が思うように伸びなかった。しかし、助成金として伊藤記念財団より200万円、福岡市300万円、福岡県300万円、科研費900万円総額1,700万円となり、収入総計は6,520万円（学会負担金1,000万円）となった。予算計上後のプログラム変更などにより、支出も同額と也、収支差額0で大会を終了した。

細々した点では、無駄使いもあったかと思える。例えばエクスカッションは事前登録による先着順で無料としたが、当日に参加登録者が現れず、バスを2台キャンセルすること

となったり、昼食等もアジアの旺盛な食欲に料理等の追加注文を余儀なくされたりとか不測の事態に遭遇した。

しかし、登録料を安価に設定したことにより、参加者はスタッフを含め1,300名が参加した大会となり、1,300名の内、約800名が外国人登録者であったので初期の目的としての海外からの大会参加者を多く集めることは出来た AAAP 会議であったといえる。

3) 募金・広報・登録部会

本部会の構成は、第17回アジア・大洋州畜産学会組織委員会委員11名（常務理事3名、監事1名、各地域畜産学会会長7名）とした。

活動内容は、会員や個人向けの募金額の設定、協賛・募金趣意書及び寄付のお願い（リーフレット）の作成、日本畜産学会誌及び第17回アジア・大洋州畜産学会ホームページに掲載・掲出した寄付依頼文章の作成であった。

個別の団体・個人への寄付依頼については、部会として組織的な活動を行わなかったにも関わらず、組織委員会委員各位の労を惜しまぬ全面的なご協力、ならびに日本畜産学会会員の皆様からのご厚情により、実質的には1年足らずの短期間で1,000万余の共催費・寄付金を頂戴した。

登録に関してはカテゴリー分けと会議当日を含め登録後の若干の認識の齟齬（主に国外からの参加者）について対応（判断）したが、いずれも関係各位の的確なご判断で大きな問題にはならなかった。

海外からの参加者数が予想を大幅に超える中、大会を成功裏に導いて頂きました関係各位、関連団体各位に心から深謝申し上げる。

4) 宿泊・旅行部会

宿泊・旅行部会は、大会2日目（24 Aug）午後実施された Excursion の計画・運営を担当した。この Excursion は、1) 太宰府コース、2) 唐津コース及び3) 工場（ヤクルト）見学コースの3つのバスツアーとした。このツアー参加者は、海外からの AAAP 参加者に限定し、約450名が参加し、問題なく、好評を博した。ツアーへの申込みは、Registration 時に Web で事前に登録をお願いした。3) はヤクルトの工場見学であることから定員を70名に限定し、このツアーに限って案内係の学生アルバイトを添乗させた。なお、通常の AAAP 大会では家畜生産関係の見学を行うことが多いが、家畜防疫の観点から、今回は、工場見学と福岡エリアの観光とした。さらに、宿泊や観光に関連した情報提供や斡旋については、今大会は開催地が福岡であることから、これらは取り扱うことをせず、「トラベルデスク」も設置しなかった。

無事にこの Excursion を終えることができ、ご協力いただいた関連団体各位に心から深謝申し上げます。

5) 会場・接遇・展示部会

本部会では、会場の運営、開・閉会式、歓迎パーティー、フェアウェルパーティーの企画・運営、さらに、展示スペースの企画・管理を担当することとなった。

開催場所については、当初複数の候補があったが、使用料などの予算面やアクセスの利便性などを考慮した結果、最終的に九州産業大学で行うことが組織準備委員会で決定された。決定後は九州産業大学の安藤光一会員を通じて、使用する発表会場の確認や必要となる手続きなどを進めていった。

会場のセッティング・運営に関しては、(株)コンベンションリンケージに業務委託した。シンポジウム10会場、オーラルセッション41会場(JSAS Excellent Presentation Award for Students 6会場、一般口頭発表35会場)及びポスターセッション1会場について、それぞれ担当教員(各1から2名)と学生アルバイト(各2名以上)を配置した。担当者については、九州大学の教員ならびに組織委員会スタッフだけではすべての会場をまかなうことができなかつたため、宮崎大学と鹿児島大学の会員に応援を要請した。アルバイトは九州大学の学生が中心であった。会場スタッフには同色のTシャツを各日1枚ずつ配布して着用してもらい、参加者に運営スタッフであることがわかるようにした。会場運営は、大きな問題もなく比較的順調に進捗した。

開会式は、九州産業大学に十分なスペースを確保できなかったことから、ホテル日航福岡(3階都久志の間)にて開催することとなった。当日は、まず、古瀬充宏大会長により開会の辞が述べられ、小泉聖一日本畜産学会理事長の挨拶に続いて、福岡県知事、日本獣医師会会長より来賓の御挨拶をいただいた。続いて11th AAAP Science Award, 4th Woogene B&G Award 及び AJAS CAPI Outstanding Research Award の授与が行われた。休憩を挟んで基調講演が行われたが、演者の到着が遅れたため、講演の一つがキャンセルとなってしまった。しかし、開会式は準備していた600名分の座席がほとんど埋まり、立ち見も多く出る盛況ぶりであり、参加者にも好評であった。別会場に準備していたモニタールームは会場が離れていたためか利用者はいなかった。開会式に続いて、歓迎パーティーを催した。パーティー会場は開会式会場の隣であったことから開会式に出席したほぼすべての参加者が会場を訪れたと思われ、大変盛況であった。パーティーでは地元産の博多地鶏や日本酒、焼酎など十分な量の飲食物がふるまわれ、また、途中で行われた忍者ショーなどの余興も大変好評であり、大いに盛り上がった。

閉会式は最終日に九州産業大学において行われ、古瀬充宏大会長による閉会の挨拶の後、小澤壯行組織委員会委員による全体総括が行われた。続くフェアウェルパーティーでは、各国の参加者による歌が披露されるなど、大変盛り上がり、親善と友好を次回に持ち越すことができた。また、優秀発表賞の授与もこの場で行われた。最終日まで残る参加者が予想より少なかったため、大量の食事が残ってしまったのは反省点である。

展示は、初日については開会式の受付ホールにて行った。スペースが限られる中、地元福岡の特産物としてJA福岡八女による八女茶の試飲、ふくおかの畜産販売促進会による博多和牛や博多地鶏の紹介が行われた。また、スポンサー5社を含む9団体による展示が大会2~4日目に九州産業大学のサブホールにて行われた。

14. 第17回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会規則

(設置の目的)

第1条 第17回アジア・大洋州畜産学会議（以下「国際会議」という）を日本で開催するにあたり、公益社団法人日本畜産学会（以下「本会」という）は、国際会議の準備、運営及び関連諸行事を行うため、本会細則第4章による委員会として、第17回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会（以下「組織委員会」という）を設置する。

(運営)

第2条 組織委員会の運営は、平成27年9月10日に本会理事会で合意したこの規則に定めるところによる。

(任務)

第3条 組織委員会は、国際会議開催の準備、運営及び関連行事等に関し、次の業務を行う。

- (1) 国際会議の計画概要の作成
- (2) 国際会議の実施計画の作成
- (3) 決定された国際会議の計画の実施
- (4) 国際会議参加者からの参加費の徴収
- (5) 国際会議開催のための寄付金の募集及び徴収
- (6) (3)号、(4)号及び(5)号に関わる経理
- (7) その他前各号に付随する事項

(委員の委嘱)

第4条 組織委員会委員は、本会理事会の決定により本会理事長が委嘱する。委員の任期は、委嘱をうけた日から、国際会議開催に関わる事業終了の日までとする。

(構成)

第5条 組織委員会は、委員長、副委員長及び委員により構成する。

- 2 委員長は委員の互選によりこれを定め、副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長は組織委員会を代表し、その所掌事項について総括する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長が不在の時、又は委員長に事故ある時は委員長の職務を代行する。
- 5 組織委員会は必要に応じ、委員長が招集する。

(組織委員会の成立及び議決)

第6条 委員会は、委員の1/8以上が出席しなければ、議事を開き、議決することはできない。ただし、当該議事につき書面もしくは電磁的方法をもって予め意志を表示したものは出席者とみなす。議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(理事会に対する連絡)

第7条 組織委員会は重要事項について本会理事会に報告し、又はその決定を求めるものとする。

(学術・プログラム・出版部会)

第8条 組織委員会のもとに学術・プログラム・出版部会を設け、部会長及び部会員を置く。

- 2 部会長は、委員より委員長が委嘱し、所掌事項を総括するとともにプレナリーセッション、シンポジウム及び公開講演会の責任者を指名する。

- 3 部会員は、委員より適任者を委員長が選出し、理事長が委嘱する。
- 4 学術・プログラム・出版部会は国際会議の準備・運営に関し、次の事項について協議する。

(1) 国際会議のプレナリーセッション、シンポジウム、公開講演会及び一般演題の演題、演者及び座長の決定、依頼及び進行に関する事項

(2) 国際会議プログラムの出版に関する事項

(3) 国際会議の閉会式における表彰に関する事項

(4) その他前各号に付随する事項

(財務・経理部会)

第9条 組織委員会のもとに財務・経理部会を設け、部会長及び部会員を置く。

2 部会長は、委員より委員長が委嘱し、所掌事項を総括する。

3 部会員は、委員より適任者を委員長が選出し、理事長が委嘱する。

4 財務・経理部会の分担する業務及びその遂行は、組織委員会規則第3条及び別に定める「第17回アジア大洋州畜産学会議開催のための準備、運営及び関連諸行事のため参加者から徴収する参加費及び募集する寄付金等会計管理規程」に基づいて行うものとする。

(募金・広報・登録部会)

第10条 国際会議が所期の成果をあげられるよう寄付金等を募集することを目的とし、組織委員会のもとに募金・広報・登録部会を設け、部会長及び部会員を置く。

2 部会長は、委員より委員長が委嘱し、会務を総括する。

3 部会員は、委員より適任者を委員長が選出し、理事長が委嘱する。

4 部会長は、募金活動の円滑化を図るため、必要に応じ顧問の協力を求めることができる。

5 募金・広報・登録部会の分担する業務及びその遂行は、組織委員会規則第3条及び別に定める「第17回アジア大洋州畜産学会議開催のための準備、運営及び関連諸行事のため参加者から徴収する参加費及び募集する寄付金等会計管理規程」に基づいて行うものとする。

(宿泊・旅行部会)

第11条 組織委員会のもとに宿泊・旅行部会を設け、部会長及び部会員を置く。

2 部会長は、委員より委員長が委嘱し、会務を総括する。

3 部会員は、委員より適任者を委員長が選出し、理事長が委嘱する。

4 宿泊・旅行部会は国際会議の準備・運営に関し、次の事項について協議する。

(1) 国際会議参加のための宿泊及び移動交通手段に関する事項

(2) 国際会議開催期間中におけるエクスカーションの計画、運営に関する事項

(3) その他前各号に付随する事項

(会場・接遇・展示部会)

第12条 組織委員会のもとに会場・接遇・展示部会を設け、部会長及び部会員を置く。

2 部会長は、委員より委員長が委嘱し、会務を総括する。

3 部会員は、委員より適任者を委員長が選出し、理事長が委嘱する。

4 会場・接遇・展示部会は国際会議の準備・運営に関し、次の事項について協議する。

(1) 会場の準備、運営に関する事項

(2) 開会式、歓迎パーティー、閉会式、フェアウェルディナーの計画、運営に関する事項

(3) 展示スペースの企画、管理に関する事項

(4) その他前各号に付随する事項

(事務局)

第 13 条 組織委員会の諸事務を行うため、組織委員会に事務局を置く。

2 事務局長は、委員の中から委員長が指名する。

(改正)

第 14 条 本規則の改正は、本会理事会での合意に基づかなければならない。

(解散)

第 15 条 組織委員会は、国際会議の残務整理の事務の完了時に本会理事会での合意に基づき解散するものとする。

15. 第17回アジア・大洋州畜産学会議組織委員会

1) 組織委員

阿久澤良造 (日本獣医生命科学大学)	浅沼 成人 (明治大学)
麻生 久 (東北大学)	足立 吉敷 (茨城大学)
安部 直重 (玉川大学)	安藤 光一 (九州産業大学)
一戸 俊義 (島根大学)	入江 正和 (近畿大学)
牛島 仁 (日本獣医生命科学大学)	小澤 壯行 (日本獣医生命科学大学)
押部 明德 (国際農林水産業研究センター)	柏崎 直巳 (麻布大学)
川島 知之 (宮崎大学)	川本 康博 (琉球大学)
菊地 和弘 (農業生物資源研究所)	国枝 哲夫 (岡山大学)
小泉 聖一 (日本大学)	後藤 貴文 (九州大学)
小林 信一 (日本大学)	小林 泰男 (北海道大学)
佐々田比呂志 (北里大学)	佐藤 英明 (家畜改良センター)
佐藤 正寛 (畜産草地研究所)	塩谷 繁 (九州沖縄農業研究センター)
島田 和宏 (畜産草地研究所)	菅原 邦生 (宇都宮大学)
杉浦 幸二 (東京大学)	須藤まどか (畜産草地研究所)
武田久美子 (畜産草地研究所)	竹田 謙一 (信州大学)
辰巳 隆一 (九州大学)	東村 博子 (名古屋大学)
寺脇 良悟 (酪農学園大学)	土井 守 (岐阜大学)
土肥 宏志 (農業・食品産業技術総合研究機構)	豊田 淳 (茨城大学)
内藤 邦彦 (東京大学)	永井 卓 (Food and Fertilizer Technology Center)
中西 良孝 (鹿児島大学)	新村 末雄 (新潟大学)
仁木 隆博 (東海大学)	西村正太郎 (九州大学)
橋爪 力 (岩手大学)	半澤 恵 (東京農業大学)
日高 智 (帯広畜産大学)	平松 浩二 (信州大学)
廣岡 博之 (京都大学)	古瀬 充宏 (九州大学)
豊後 貴嗣 (広島大学)	松井 宏樹 (三重大学)
宮野 隆 (神戸大学)	森田 哲夫 (宮崎大学)
山内 伸彦 (九州大学)	山内啓太郎 (東京大学)
吉田 達行 (日本獣医生命科学大学)	渡邊 彰 (畜産草地研究所)

56名, 五十音順

2) 顧問

大野 高志 (農林水産技術会議事務局研究総務官)
岡村 卓治 ((一社)全国農業協同組合連合会酪農部長)
甲斐 藏 (元日本畜産学会理事長)
片桐 薫 (農林水産省九州農政局生産部長)
金井 俊男 ((公社)日本食肉格付協会会長)
強谷 雅彦 ((独)農畜産業振興機構統括理事)
小林 博行 (農林水産省生産局畜産部畜産振興課長)
迫田 潔 (中央酪農会議専務理事)
田中 智夫 (元日本畜産学会理事長)
寺田 文典 (元日本畜産学会副理事長)
南波 利昭 ((公社)中央畜産会副会長)
菱沼 毅 ((公社)畜産技術協会会長)
前田 浩史 ((一社)Jミルク専務理事)
三輪睿太郎 (日本農学会会長)

14名, 五十音順

日本畜産学アカデミー会員

秋葉 征夫	石橋 晃	板橋 久雄	猪 貴義	今井 清
今井 裕	入谷 明	祝前 博明	上原 孝吉	大久保忠旦
尾川 昭三	沖谷 明紘	奥村 純市	金井 幸雄	鎌田 壽彦
川島 良治	木村 直子	木村 信熙	楠原 征治	栗原 良雄
河本 馨	紺野 耕	佐々木義之	佐藤 孝二	正田 陽一
菅野 茂	菅原 和夫	菅原 七郎	鈴木 敦士	泉水 直人
田中 一栄	田名部雄一	梶村 恭子	豊田 裕	丹羽太左衛門
橋口 勉	花田 章	林 良博	番場 公雄	古谷 修
細井 美彦	前多敬一郎	正木 淳二	榎田 博司	眞鍋 昇
水野 秀夫	六車三治男	森地 敏樹	矢野 秀雄	吉澤 緑
吉村 幸則	吉本 正	渡邊 誠喜		

53名, 五十音順

3) 組織委員会役員及び各部会員

委員長 小泉 聖一 (日本大学)
副委員長 半澤 恵 (東京農業大学)
事務局長 山内啓太郎 (東京大学)

学術・プログラム・出版部会

部会長	佐藤 正寛 (畜産草地研究所)	下桐 猛 (鹿児島大学)
	古瀬 充宏 (九州大学)	杉山 稔恵 (新潟大学)
	安部 直重 (玉川大学)	高田 良三 (新潟大学)
	有原 圭三 (北里大学)	高橋 昌志 (北海道大学)
	家入 誠二 (宮崎大学)	武田 尚人 (畜産草地研究所)
	石川 尚人 (筑波大学)	田島 清 (畜産草地研究所)
	磯部 直樹 (広島大学)	塚原 隆充 (栄養・病理学研究所)
	植竹 勝治 (麻布大学)	束村 博子 (名古屋大学)
	永西 修 (畜産草地研究所)	中島 一喜 (畜産草地研究所)
	小澤 壯行 (日本獣医生命科学大学)	西野 直樹 (岡山大学)
	小櫃 剛人 (広島大学)	原山 洋 (神戸大学)
	勝俣 昌也 (麻布大学)	舟場 正幸 (京都大学)
	菊地 和弘 (農業生物資源研究所)	豊後 貴嗣 (広島大学)
	木村 澄 (畜産草地研究所)	増田 哲也 (日本大学)
	櫛引 史郎 (畜産草地研究所)	万年 英之 (神戸大学)
	熊谷 元 (京都大学)	三森 眞琴 (畜産草地研究所)
	小泉 聖一 (日本大学)	山田 宜永 (新潟大学)
	高坂 哲也 (静岡大学)	山内啓太郎 (東京大学)
	小林 栄治 (畜産草地研究所)	吉村 幸則 (広島大学)
	佐藤 幹 (東京農工大学)	若松 純一 (北海道大学)

財務・経理部会

部会長 小泉 聖一 (日本大学)
吉田 達行 (日本獣医生命科学大学)
辰巳 隆一 (九州大学)

募金・広報・登録部会

部会長 半澤 恵 (東京農業大学)

山内 伸彦 (九州大学)
小澤 壯行 (日本獣医生命科学大学)
菊地 和弘 (農業生物資源研究所)
竹田 謙一 (信州大学)
麻生 久 (東北大学)
一戸 俊義 (島根大学)
小林 信一 (日本大学)
新村 末雄 (新潟大学)
日高 智 (帯広畜産大学)
松井 宏樹 (三重大学)
森田 哲夫 (宮崎大学)

宿泊・旅行部会

部会長 柏崎 直巳 (麻布大学)
後藤 貴文 (九州大学)

会場・接遇・展示部会

部会長 安藤 光一 (九州産業大学)
西村正太郎 (九州大学)
豊後 貴嗣 (広島大学)
川本 康博 (琉球大学)
武田久美子 (畜産草地研究所)
杉浦 幸二 (東京大学)

16. 寄付金（個人・団体）、スポンサー、補助金の構成

1) (公社) 日本畜産学会会員の個人寄付者一覧（名簿未掲載希望者を含め162名、五十音順）

阿久澤良造	大関 輝男	小林 信一	辰巳 隆一	豊後 貴嗣
足立 吉数	沖谷 明紘	坂田 亮一	田中 智夫	水間 豊
安部 直重	小野 珠乙	佐藤 英明	田中 正仁	六車三治男
阿部 啓之	甲斐 藏	佐藤 孝二	徳永 忠昭	森田 哲夫
石井 康之	梶 雄次	佐藤 正寛	内藤 悦夫	森地 敏樹
板橋 久雄	柏崎 直巳	柴田 正貴	中井 裕	守屋 和幸
一戸 俊義	加藤 和雄	島田 和宏	仲西 友紀	安江 健
入江 正和	川島 知之	清水池義治	中西 良孝	矢野 史子
祝前 博明	菊地 和弘	白石 純一	新村 末雄	山之上 稔
内田 仙二	喜多 一美	菅野 茂	西谷 次郎	横山 次郎
内田 宏	北川 政幸	菅原 邦生	菫澤圭二郎	横山 学
梅津 元昭	木野 勝敏	鈴木 啓一	橋口 勉	吉澤 緑
梅村 和弘	久米 新一	鈴木 貴弘	橋爪 力	吉田智佳子
及川 大地	栗原 光規	泉水 直人	林 義明	吉村 幸則
及川 卓郎	小泉 聖一	宋 知紀	廣岡 博之	渡邊 彰
大澤 健司	小杉山基昭	武田久美子	船津 保浩	渡邊 誠喜
大島 光昭	後藤 貴文	橋 哲也	古瀬 充宏	

2) 団体寄付者一覧

木村畜産技術士事務所	一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会
有限会社タケダ繁殖クリニック	北信越畜産学会新潟県分会
森林ノ牧場株式会社	一般社団法人 日本草地畜産種子協会
株式会社肉牛新報社	東洋サイエンス株式会社
全国肉牛事業協同組合	一般社団法人 日本繁殖生物学会
あすかアニマルヘルス（株）	ファームアシスト株式会社
味の素アニマル・ニュートリション・グループ(株)	伊藤忠飼料株式会社
株式会社 ホクチク	雪印種苗株式会社
公益社団法人 新潟県獣医師会	文永堂出版株式会社
公益社団法人 日本食肉格付協会	一般財団法人 化学及血清療法研究所
一般財団法人 生物科学安全研究所	一般社団法人 日本家畜人工授精師協会

以上 22 団体

3) スポンサー一覧

住友化学株式会社

株式会社ワイピーテック

エポニックジャパン株式会社

株式会社オールインワン

日本全薬工業株式会社

オルテック・ジャパン合同会社

株式会社リプロライフ

Meiji Seika ファルマ株式会社

森永乳業株式会社

八千代伝酒造社

本坊酒造株式会社

大海酒造株式会社

田苑酒造株式会社

大口酒造株式会社

さつま無双株式会社

奄美大島開運酒造

日本ハム株式会社

全国農業協同組合連合会（全農）

株式会社サーマス [本社]

株式会社サーマス [事業拠点]

全国酪農業協同組合連合会

九州協同食肉株式会社

日本中央競馬会

WILEY

山元酒造株式会社

国分酒造株式会社

野川 恵美子 様

雲海酒造株式会社

瑞穂菊酒造株式会社

宮内酒造合名会社(長島研醸有限会社)

霧島酒造

小正醸造

以上 32 団体

4) 補助金

公益財団法人 伊藤記念財団

福岡市

福岡県

日本学術振興会（科研費）

17. サーキュラー，ポスター，ロゴ，当日配布物など

1) サーキュラー

サーキュラーとポスターに掲載する写真は東海大学農学部応用動物科学科の伊藤秀一先生からご提供頂いた。

Fukuoka

Fukuoka City has an excellent natural harbor and a geographic location close to the Asian continent. Hakata Port has been an international trade center for a long time. Nowadays, with the port and the convenience that Fukuoka Airport has brought, the city flourishes as the commercial center of Kyushu.

The shrine of Dazaifu Tenmangu

Landscapes of Fukuoka

Enjoy the food of the stand in Tenjin

Access to Kyusyu Sangyo University

from Fukuoka Airport

- Fukuoka Airport Sta., Fukuoka City Subway
- ▼ 20min Subway (Kuko Line)
- Fukuoka City Subway, Hakata Sta.
- ▼ connected
- JR Hakata Sta.
- ▼ Nam. Direction about 16 min Kagoshima Line
- Kyusandai-Mae Sta.
- ▼ on foot about 1 min
- KYUSYU SANGYO UNIVERSITY**

17th AAAP ANIMAL SCIENCE CONGRESS

22-25 AUGUST 2016

CONGRESS VENUE FUKUOKA JAPAN

Photo by Shuichi Ito (Total University)

Welcome Message

The 17th Animal Science Congress of AAAP will be held at Kyusyu Sangyo University, Fukuoka, Kyusyu Area in Japan, from 22 to 25 August 2016. The aim of this congress is to provide a forum for the exchange of new information on animal sciences and technology, with a focus on successful strategies for the sustainable orientation of livestock considering the environment and welfare of livestock and human beings. At the same time, this congress will provide a venue for people from both inside and outside of the Asian Australasian region to make new contacts and renew friendships. Japanese Society of Animal Sciences is organizing the 17th AAAP Congress and is pleased to welcome overseas to this congress who are interested in animal science and production. The venue of the congress, Fukuoka City, where tradition meets modernity, with delicious dishes and an excellent geographic location close to the Asian countries.

Prof. Shuichi Ito
Professor of ITRI-AAAP

Schedule (tentative)

Mon., Aug 22	Registration Opening Ceremony Keynote Lectures Welcome Reception
Tue., Aug 23	Symposium, Workshop Oral and Poster Sessions, Public Lecture
Wed., Aug 24	Symposium, Workshop Poster Sessions, Excursion
Thur., Aug 25	Symposium, Workshop Oral and Poster Sessions, Closing Ceremony Farewell Dinner

Registration fee

	Early registration (1 Dec 2015-30 Apr 2016)	Late registration (1 May 2015-31 Jul 2016)
Author delegates	¥25,000	¥35,000
Student A	¥15,000	¥20,000
Student B	¥10,000	¥15,000
Accompanying person	¥15,000	¥20,000

Student A: Delegates from: Arab countries, Australia, Canada, China, European countries, India, Iran, Japan, Korea, New Zealand, Northern Africa countries, South Africa, Taiwan, UK, USA
Student B: Delegates from: ASEAN countries, Afghanistan, Africa countries, Bangladesh, Middle Asia countries, Pakistan, Sri Lanka, Timor Leste

Main theme 🐄🐓

Strive toward Progress on Sustainable Animal Production Contribute to Environment and Welfare for Human and Livestock

Subjects (tentative)

- Global trading and animal products
- Improvement of animal welfare on farm level
- Sustainable society and animal production
- Breeding and genetics of native breeds
- Unutilized resources and feed technology

Photo by Shuichi Ito (Total University)

www.aaap2016.jp

2) ポスター

17th
AAAP
Animal
Science
Congress

22-25
AUGUST
2016

**17th AAAP
ANIMAL
SCIENCE
CONGRESS**

CONGRESS
VENUE
FUKUOKA
JAPAN

FUKUOKA

Osaka Nagasaki

THE ASSOCIATION OF ANIMAL PRODUCTION SCIENTISTS
OF ASIA AND THE PACIFIC

JSAS
Japanese Society
of Animal Science

www.aaap2016.jp

Photo by Shuichi Ito (Tohoku University)

3) ロゴ

九州産業大学芸術学部デザイン学科の
河内知木先生にデザインを依頼した。



4) その他

3万円以上の寄付を頂いた個人に対しては、
感謝の意を込め、志摩スモークハウスのご協力
のもと、九州大学製法による、はかた地どり
ソーセージ他の詰め合わせを贈呈した。



会議開催期間中、運営スタッフは大会ロゴ入り
のTシャツを着用した。



参加者には、プログラム、ボールペン、ノート、うちわを
 コンgressバッグに同封して配布した。



プロシーディングスはUSBメモリにて配布した。

18. 財務・経理の報告

1) 収入

科目	単価	数	合計
1 参加費			26,942,500
1)Early Registration		1,010	20,650,000
発表者・参加者	25,000	597	14,925,000
学生 A	15,000	285	4,275,000
学生 B	10,000	94	940,000
同伴者	15,000	34	510,000
2)Standard Registration		182	5,180,000
発表者・参加者	35,000	109	3,815,000
学生 A	20,000	45	900,000
学生 B	15,000	19	285,000
同伴者	20,000	9	180,000
3)On-site Registration		38	1,165,000
発表者・参加者	35,000	28	980,000
学生 A	20,000	5	100,000
学生 B	15,000	3	45,000
同伴者	20,000	2	40,000
4)事前未入金者当日入金		1	35,000
発表者・参加者	35,000	1	35,000
5)返金対応		5	-87,500
2 共催費			5,470,400
1)シルバースポンサー	1,080,000	1	1,080,000
2)ブロンズスポンサー	540,000	5	2,700,000
3)展示	270,000	1	270,000
4)広告協賛			572,400
カラー1 ページ掲載	216,000	1	216,000
モノクロ 1 ページ掲載	129,600	1	129,600
モノクロ 1/2 ページ掲載	75,600	3	226,800
5)その他協賛			848,000
コーヒーブレイク	378,000	1	378,000
ノベルティ	270,000	1	270,000
コンgresバッグ	200,000	1	200,000
3 寄付金			22,078,128
1)各種寄附	4,855,000		4,855,000
3)助成金			17,000,000
伊藤記念財団	2,000,000		
福岡市ビューロー	3,000,000		

福岡県	3,000,000	
日本学術振興会 科研費	9,000,000	
4)Young Scientists Award 資金(韓国, 台湾)		223,128
4 利息		29
組織委員会口座利息	13	
CL 口座(参加登録費口座)利息	16	
5 売上		188,500
1)T シャツ販売		188,500
6 学会負担金		8,808,551
収入合計		63,488,108

2)支出

科目	合計
人件費	3,824,850
諸謝金	55,685
会場費	2,021,950
会議費	7,376,305
旅費交通費	2,057,711
褒賞費	316,686
通信運搬費	1,173,699
消耗品費	2,103,821
関連行事費	11,154,350
業務委託費	9,793,548
印刷製本費	5,863,425
要旨印刷製本費	1,928,016
事務機器賃借料	6,981,726
ホームページ維持費	785,200
システム管理費	7,917,420
雑費	133,716
支出合計	63,488,108

19. 監査の報告

監 査 報 告 書

公益社団法人日本畜産学会
理事長 小泉 聖一 殿

2017年3月14日
馬目公認会計士事務所

公認会計士

馬目利羽



1. 監査の方法と概要

私は、公益社団法人日本畜産学会主催の第17回アジア・大洋州畜産学会議（開催日：2016年8月22日から2016年8月25日まで）の収支決算書について監査した。

この監査に当たって、私は、試査を基礎とし、通帳、請求書、領収書等の関係証憑と会計帳簿間の照合、及び収支決算書が適正に作成されているか検討を行った。

2. 監査の結果

監査の結果、私は、上記の収支決算書が公益社団法人日本畜産学会主催の第17回アジア・大洋州畜産学会議の収支の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

3. 利害関係

公益社団法人日本畜産学会と私の間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上